



平成 24 年
第 91 号
編集・藤田

サンショウにゆうす

(発行・発行日)2012 年 11 月

〒010-0954

秋田市山王沼田町 6-29 カルデア

山王 1 階

TEL:874-7441・FAX:863-9870

えっ、大丈夫!?



今までにない**1本支柱**で皆さん驚かれたかもしれませんが、ご安心下さい！安定感に優れた新しい据え置き型手すり

「立ちあがりくん」の登場です！

(重さ17.5kg) なんととっても足元がスッキリ！立ち上がりの際、足・膝が当たりにません。握りやすいラケット形状、トップパイプが45度に曲がっているの**「無意識に前を掴む」**意識が働き重心移動がし易いようになっていきます。高さも70～85cmと、3cm刻みで6段階の調整が出来ますよ。

(12月中旬頃の取扱い予定です。価格はまだ未定ですが、こちらも安心価格を実現させたいと思っています！)

福島、「介護人材不足」が深刻・・・

沿岸部より内陸部で若い介護職員や看護師が去り、補充も困難な状況である。月日が経つにつれ退職する人が出始めました。原発関係の問題に終わりが見えないと判断したのでしょう。毎年採用していた新卒者も、今年も応募が無かった。そもそも介護福祉養成校や看護学校自体が定員割れで、休学する学生も多い。地元の大学病院ですら「看護師が集まらない」と悲鳴を上げている状況では、老健に来るはずもないと肩を落とす。退職する職員も増えている、大半は子育て世代にあたる20～40代の女性職員だ。地域別にみると、原発の警戒区域から離れている福島市や白河市では8割が「困難」と回答しており、人手不足感が強い。原発に近い相馬・双葉・磐木よりも、東北・県中・県南などの中通りの方が放射線量が高く、人が離れがちなのです。こうした人手不足の一方で支援計画では、第1号認定者は2014年度までに5千人程度増えるとし、老健は510人分整備する計画で、それに伴い約370人の新規職員が必要になる計画だ。(シルバー新聞より)

「H・C・Rのおまけ」導尿バッグ用カバー

利用者様のプライバシーを守り、抗菌、消臭、周りを気にしなくて済みます。ただし、生産量が非常に少なくなかなか市場に出せていないのが現状だそうです。「かゆい所に手が届く」そんな商品ですね！



増える高齢者の骨折・・・晩年を健康に過ごすためには

足の付け根(大腿骨近位部)を骨折する割合がここ15年で2倍に上昇している。足の付け根を骨折すると歩けない期間が長いことから、治療中に筋力が低下し要介護になりやすい。厚生労働省の平成22年国民生活基礎調査によると、要支援・要介護状態となる10人の内1人「骨折・転倒」が原因だ。その為には普段から下半身の運動を行う事が大切です。ちょっとした「台」を「いつでも・どこでも・1人でも」、気軽にエクササイズ運動をして晩年は健康に過ごしましょう！